

2012年度日本言語政策学会九州地区研究会について

藤井久美子

2012年度日本言語政策学会九州地区研究会は2012年12月8日(土)に宮崎大学教育文化学部で開催された。趣意書は山川和彦先生が作成下さり、研究会ながら名称は「シンポジウム：観光と言語政策—言語政策と国際交流観光を考える—」とした。観光に焦点をあてたことから「日本風景街道『日南海岸きらめきライン』」にもご協力をいただいた。

研究会ではまず先に二つのご講演をいただいた。一つ目は学会長である森住衛先生の「日本の異言語教育政策の現状と課題—異言語教育全体・英語教育・英語外の異言語教育—」である。二つ目は木下正義先生(ジャイロスコープ株式会社・教育開発担当部長、日本言語テスト学会副会長)の「これで良いのか日本の言語政策—言語政策の欠点・国際言語管理及びハウステンボス「英語村」—」であり、ハウステンボスに開設されている「英語村」の紹介からは、民間機関での英語教育の取り組みについて貴重な知見を得ることができた。

講演の後には「観光と言語政策」をテーマとするパネルディスカッションがあった。宮崎で観光に関連した業務に携わる方々をお招きし、外国人観光客に向けた情報発信やサービス、また接遇などについてお話ししていただいた。パネリストは、和田皓氏(日南商工会議所副会長、日南海岸活性化推進協議会会長)、福永栄子氏(株式会社アイロード代表(旅の情報誌『みちくさ』編集長)、宮崎県観光審議会委員)、谷越衣久子氏(一般財団法人みやざき公園協会課長、日本風景街道「日南海岸きらめきライン」事務局、宮崎県観光審議会委員)の3名である。本学会からは、森住衛会長(コメンテーター)と山川和彦先生(コーディネーター)がご登壇下さった。パネルディスカッションの中では、観光の現場で実際に起きている事柄などが経験談として紹介され、今後に向けて多くの貴重な示唆を与えていただいた。

国策として観光立国化が進められる中、本学会でも今後は外国人接遇などの方面から言語政策を検討することが必要になってくるであろう。言語景観研究発展の方向性を探る上でも、非常に有意義な研究会であった。

(宮崎大学)